平成25年度学内版 GP　成果報告書

取組名称	北杜夫コレクションを活用した約 70 年間の中部山岳域における 環境変遷の把握
実施組織 （または対象のカリキュラム）	総合工学系研究科・山岳地域環境科学専攻
※連携する他学部･機関がある場合は記入	理学部・自然科学館・付属図書館
実施責任者(所属)	東城　幸治（理学部）
取組の目標	「信州の自然や特色を素材として活用する教育やフィールド実習」を通し、取り巻く環境や自然および専門分野の関わりを深く理解する
1. 目標達成のために行った活動と成果 （箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする）	戦前・戦後に、北杜夫氏および清沢晴親氏により信州で採取された昆虫類の未整理標本を整理・最同定する作業を通し、かつての自然環境と昆虫相を理解するとともに、フィールドワークを通した現在の自然環境とを対比することにより、自然環境の変遷を理解した。具体的活動は以下の通り。 1. 北杜夫コレクションなどの整理・再同定作業（必要に応じて DNA 解析）を実施した 2. 松本市山と自然博物館・特別企画展「北杜夫と松本」へ展示協力した 3. 整理された北杜夫コレクションのデータに基づき、現在の松本平・北アルプス（上高地など）・美ヶ原などでのフィールド調査活動を実施し、戦前からの自然環境や昆虫相の変遷に関する議論を実施した 4. これらの結果、北杜夫コレクションに長野県初記録となる希少種の存在を確認し、野外調査からそのハビタット改変を確認すると共に、類似ハビタットでの調査を通して新規産地を発見した。専門家の協力下、2 名の大学院生と本事業責任者が共著者として、論文として公表した（別添）。また、新聞紙上でも取りあげていただいた（別添） 5. これらの成果の一部は、2014 年夏に広島県福山市にて開催される北杜夫氏追悼の特別展において、本学付属図書館所蔵の北氏直筆の書簡などとともに展示される計画で準備中である
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望	本事業により、北杜夫コレクションの整理作業がほぼ完成し、本データベースを信州大･日本昆虫協会･松本市山と自然博物館で共有することとなった。また、一部の成果を論文として公表した他、長野県レッドリスト改訂作業においても重要な貢献を果たす結果となり、当初の予定以上に大きな成果を上げることができた。北杜夫コレクションに関しては、現在、日本昆虫協会が管理しているが、母校でもあり、標本の多くの産地が松本市域であることから、将来的には信州大学での管理を打診されている。今後は、自然科学館とも協議しながら、受け入れ態勢の整備に向けて本プログラムを展開したい。